

東京文化財ウィーク 2002 報告 ～東京の秋、文化財の秋～

《文化財一斉公開》

武蔵国分寺跡などをめぐる「ミニ文化財めぐり」として11月4日(休)に国分寺境内にある国分寺市文化財保存館にて、国の重要文化財に指定された縄文時代中期の土器「武蔵多喜窪遺跡第1号住居跡出土品」が特別公開されました。多数の参加者が訪れ、国分寺市教育委員会職員から国指定史跡「武蔵国分寺跡」から出土した古瓦などの説明を聞きました。みごとな装飾が施された縄文土器に感嘆の声をあげ、またかつて広大な規模を誇った武蔵国分寺の歴史に想いを馳せていました。



武蔵多喜窪遺跡第1号住居跡出土品
写真提供:国分寺市教育委員会



国分寺の復元模型を前に説明をきく

11月3日(日)から10日(日)までの8日間「東京文化財ウィーク2002」を実施し、都内にある国・都指定文化財のうち、340の文化財が一斉公開されました。また、10月・11月の両月には都内の文化財に関係のある内容で、都民の皆さんに文化財に親しんでいただこうと区市町村等が企画した124の事業が都内各地で行なわれました。その一部を紹介しましょう。

《区市町村等企画事業》

平成14年度文化講座「伝統芸能にふれる一歌舞伎の舞台裏にせまる」として11月11日(月)に、千代田区が国指定重要無形文化財・歌舞伎について理解を深めようという講座を国立劇場の協力を得て実施しました。約50名の参加者は、鑑賞ポイント等についての講義を聞いた後、「通し狂言『仮名手本忠臣蔵』第一部」を鑑賞し、「廻り舞台・花道」等のバックステージツアー(舞台裏見学)を体験しました。さまざまなことに驚き、歌舞伎を身近に感じられる一日でした。



舞台裏見学:国立劇場担当者の説明をききながら

秋の「米長邦雄の親子ふれあい将棋教室」が終了しました。

11月23日の勤労感謝の日に、都内の親子100組の参加により、秋の「米長邦雄の親子ふれあい将棋教室」が行なわれました。

晩秋の寒さの中ではありませんでしたが、将棋を指す子どもたちの熱心な視線とその様子をたのもしそうに見つめる保護者の方々に、ひととき心が暖かくなりました。

教室終了時間ぎりぎりまで、熱心にプロ棋士の皆さんに挑戦したり、親子対局に熱中したり、「将棋」を通して親子のふれあいが深まった一日でした。



父親 パワーアップ講座 (第1回)報告

「今、私たちに求められていることは ～地域の居場所づくりと大人としての役割を探る～」

11月25日(月)の午後6時30分から、都庁会議室において、講師に、久田邦明さん(神奈川大学講師)をお迎えし、「父親パワーアップ講座(第1回)ー今、私たちに求められていることは～地域の居場所づくりと大人としての役割を探る～」が開催されました。当日は、企業及び行政関係者等の参加がありました。そこでは、子どもや若者にとっての大人になるための自治的活動の場、居場所の必要性に着目していくとともに、各地に広がる居場所づくりの事例について学びながら、地域の大人として求められる役割について考え合いました。地域の居場所づくりへの第一歩を踏み出すきっかけになったのではないのでしょうか。

